

～ 自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること ～

## 後期がスタートしました — 質問のススメ —



10月12日から令和2年度の後期がスタートしました。引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を講じながら、西中の教育活動を進めていきます。これまで同様、生徒のみなさんをはじめ保護者や地域の方々のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

さて、後期のスタートにあたり、ある中学3年生の話をします。

ちょうど今ぐらいの時期のことです。その生徒は、ある日の理科の授業の後、真剣な顔をして理科の先生に相談します。「どうしてもA高校に行きたいです。でも、今の自分の力では行けそうにありません。理科が苦手で全然わかりません。どうしたらいいですか。」と。そして、理科の先生からは、「毎日、1つでもいいから、自分から(理科の)質問をしにきてみない?」とアドバイスされたそうです。それから、その生徒は、3ヶ月間にわたって、毎日、休み時間に先生に質問をしに行きました(3ヶ月以降は、質問したいときに行っていたそうです)。1回の質問では、先生とのやりとりを入れて、そのほとんどは5～10分ぐらいで終わっていたようです。すると、少しずつ、成果が出てきて、理科の成績が上がり始めました。そして、理科だけでなく、どの教科も伸び、希望する高校に入学することができたということです。高校合格が決まった後に、この生徒に話を聞くと、次のようなことを話したそうです。

なお、**太文字**は生徒本人が獲得していった力などを補足して説明しています。

- ① 自分から質問をしに行くこともあって、苦手でなかなか勉強する気にならなかった理科を、自分の意志で勉強するようになった。  
→ **自分で『自分の学習スイッチをONにする力』を身につけた。**
- ② はじめは自分で勉強してもわからないことが多く、辛かった。だけれども、勉強していると、自分がどこがわかっていて、どこがわからないのかを自分で気づくようになった。  
→ 「わからないから…」とあきらめて何もしないではなく、**具体的に「これを理解すればいいんだ!」、「これを覚えればいいんだ!」など、自分が何をすればいいのかがはっきりして、勉強すること自体がやりやすくなった。**
- ③ そして、そのわからないことを1つ1つ質問するようになった。  
→ **1つか2つの質問をしに行き、確実に自分の力にしていいた。**
- ④ なぜか質問をしに行くときにすぐに理解できることが多かった。先生のアドバイスもあって、質問したことは必ず家に帰ってもう一度自分で勉強した(復習した)。  
→ **自分から質問に行くということは、わかるようになりたいという意思が明確にあったため、意識せずとも集中して先生の説明などを受け、自分の力にすることができた。**
- ⑤ そうしながら日々がんばっていたが、なぜか授業でもわかることが多くなった。  
→ **質問をしに行っていたことが、自ら集中して説明を聴く力などをつけていき、自然に授業態度に活かされていた。**
- ⑥ 3年生の終わりの方では、あんなに苦手だった理科を友だちから質問され、教えることが時々あった。教えると友だちは「わかった」と喜んでくれたし、何より自分にとって、とてもよかった。  
→ **自分の力を他の人のために生かすことができた。そして、教えることで、教えている自分がその内容をより理解できるようになった(教えることで学んだ)。**
- ⑦ 自分でも不思議に思うぐらいに勉強をがんばったと思う。高校でもがんばりたい。  
→ **質問をきっかけとして、理科の学習内容を理解できるようになったとともに、自分の一つ一つの行動によって、自分が変わり(成長して)、自分の自信となった。**

他にも、質問をし、先生とやりとりをする中で「これは、教科書で調べればいいんだ」と自分で気づき、教科書で調べることも自らとりくむようになったと言っていたそうです。教科書を使うことはわかっていたつもりでも、このように自分で気づき、考えて(判断して)、自ら教科書で調べるという行動を起こしたことは、自分のもてる力を発揮できるようになったということがいえます。

(文責 木村彰男)